



エコマークとグリーンマークのちがいを教えて

環境を守るためのエコマークと、紙の大切さを知らするためのグリーンマーク

エコマークは、環境を守るのに役立つと認められる商品につけられています。環境にやさしくありたいと願う人々に、そういう商品を選んでもらうことを目的としています。一方、グリーンマークは、古紙を使った製品を利用してもらうことにより、紙の大切さを知ってもらうことを目的としています。

エコマーク事業

エコマーク事業は、環境庁の指導のもとに、財団法人日本環境協会が行っています。エコマークをつけることができる基準は、商品の種類ごとに決められています。ほかの同じ種類の製品と比べて、環境への影響が少ないものにだけ、エコマークがつけられるようになっています。

日本でのエコマークは、1986年に、環境への影響の少ない製品に「ちきゅうにやさしい」と書いたマークをつけ、環境意識を高めようということで始まりました。

グリーンマーク事業

グリーンマーク事業は、財団法人古紙再生促進センターが行っています。グリーンマークは、古紙を再生利用した、雑誌、ノート、トイレトペーパーなどの商品につけられています。グリーンマークを集めた学校や町内会などになえ木などを送り、緑を増やし、森林保護の意識を高めてもらうことをねらっているのです。（監修・青木 国夫）

